

ジオパークにおけるソーシャルメディアでの情報共有の可能性とその課題 The possibility and current issues of sharing information with social media in geoparks

新名 阿津子^{1*}
NIINA, Atsuko^{1*}

¹ 鳥取環境大学地域イノベーション研究センター

¹Regional Innovation Research Center, Tottori University of Environmental Studies

2004年からスタートしたジオパークは、2014年2月時点でGGN加盟ジオパークが世界29か国100地域、JGN加盟ジオパークが33地域（GGN加盟6地域を含む）となり、今後、ますますその成長が見込まれる。ジオパークは知識と経験の共有によって活動が進められる。この知識と経験の共有はコミュニケーションを介して行われる場合が多いが、そのコミュニケーション形態およびそのツールはソーシャルメディアの出現により多様化した。山陰海岸ジオパークのように東西約110km、南北最大30kmにもわたる広域なジオパークでは、対面接触による日常的なコミュニケーションが困難であり、その地理的距離を補完するためのツールとしてソーシャルメディアが利用されている。また、ソーシャルメディアは社会的な関係性の中でのネットワーク構築に長けていることから、潜在的なアクターがソーシャルメディアによって顕在化し、ジオパーク活動を担う重要なアクターとなる事例もみられる。ここでは山陰海岸ジオパークを事例に、ソーシャルメディアでの情報共有の可能性とそこに生じた問題点について報告する。

キーワード: ソーシャルメディア, コミュニケーション, 情報共有, 山陰海岸ジオパーク

Keywords: social media, communication, sharing information, San'in Kaigan Geopark